

沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システムに係る
県民意識等実態把握調査報告

平成 25 年 3 月

内閣府

目 次

序章 調査概要	1
1 調査の背景・目的	1
第1章 県民等意識調査	3
1-1 調査目的	3
1-2 調査概要	3
1-3 調査結果	5
1-3-1 回答者の属性	5
1-3-2 県内における利用交通手段	6
①県民の利用交通手段	6
②観光目的旅行者の利用交通手段	7
1-3-3 公共交通の利用状況と利用シーン	8
①ゆいレール	8
②路線バス	9
1-3-4 沖縄本島の交通事情に対する意見	10
1-3-5 現状の公共交通に対する意見	12
①ゆいレール	12
②路線バス	14
1-3-6 新たな公共交通システムが整備された場合の利用意向	16
①利用意向	16
②新たな公共交通システムの利用に際して重視する条件	17
1-3-7 沖縄本島の公共交通に対する自由意見	18
①県民意識調査結果の自由意見	18
②観光客意識調査結果の自由意見	19
第2章 県民説明会	21
2-1 県民説明会概要	21
2-2 県民説明会パンフレットの作成	23
第3章 タウンミーティング	25
3-1 タウンミーティング概要	25
3-2 タウンミーティングパンフレットの作成	26
3-3 意見交換内容	27
3-3-1 中部地域タウンミーティング	28
3-3-2 北部地域タウンミーティング	29
3-3-3 南部地域タウンミーティング	30
3-3-4 那覇地域タウンミーティング	31

序章 調査概要

1 調査の背景・目的

沖縄県の交通体系については、自動車への依存度が高く、全国一の車の増加率や、渋滞による経済的損失、公共交通の利便性の問題など、様々な課題を抱えている。これらの課題を解決し、沖縄本島内の均衡ある発展を図るため、沖縄県が策定した「沖縄 21 世紀ビジョン」においても、「中南部都市圏を縦貫し、北部圏域に至る軌道系を含む新たな公共交通システムの導入が必要である。」と盛り込まれるなど、県内における新たな公共交通システムへの期待感が高まりつつある。

他方、新たな公共交通システムの検討にあたっては、主要な利用者となる沖縄県民等の意識実態を詳細に把握し、その実態を踏まえた検討を進めていくとともに、これまでの調査結果の周知や公共交通の利用促進のための県民意識の啓発に努める必要がある。

このため、本調査では、主にアンケートによる県民意識調査とタウンミーティングによる県民意識啓発を行う。具体的には、県民へのアンケート調査等を通じて県民の交通・周遊行動の把握、公共交通システム全般に対する意見・要望の把握、新たな公共交通システムに対する転換意向等の把握を行う。また、内閣府過年度調査を周知する県民説明会をするとともに、タウンミーティングを県内 4 か所で実施して、県民意識の啓発に努めることとする。

■調査目的

・県民の新たな公共交通システムに対する意識実態を把握すること

主要な利用者と想定される県民および観光客の新たな公共交通システムに対する意向等を明らかにするアンケート調査を実施する。

・公共交通システムの利用促進に向け意識啓発を行うこと

内閣府が平成 22、23 年度に行った「沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システム導入可能性検討に向けた基礎調査」を分かりやすく県民に周知する説明会を開催する。また、調査で実施する県民等意識調査の結果及び内閣府が行った過年度調査について説明し、県民との意見交換を行うタウンミーティングを県内各地区（北部・中部・南部・那覇）で開催する。

第1章 県民等意識調査

1-1 調査目的

沖縄県民や観光客の交通・周遊行動、公共交通システム全般に対する意見・要望、新たな公共交通システムに対する意識等を把握することを目的として、県民意識調査と観光客意識調査の2種類のアンケート調査を実施した。

1-2 調査概要

県民意識調査では、日常の外出の状況、公共交通機関に対する意見を把握することを目的として、県内4地区の中から無作為に調査対象となる世帯を抽出し、性別、年齢別構成比率に配慮しながら訪問調査で配布・回収する方法で実施した。

また、観光客意識調査は、旅行形態や交通行動の状況、公共交通機関に対する意見を把握することを目的として、空港・ホテル・レンタカーステーションなどで調査票を配布し、郵送にて回収する方法で実施した。各意識調査の実施概要は以下のとおりである。

県民意識調査

調査時期	平成24年10月6日(土)～11月4日(日)
調査対象	モデルルート案※沿いの市町村在住者(15歳以上の男女) [標本数]: 4,228人、[有効回答率]: 54.6%
調査方法	訪問調査 【20歳以上】層化2段無作為抽出法(選挙人名簿より無作為抽出) [層化] ①沖縄本島の市町村を市または群を単位として地区を分類 ②各地区の中から総計55地点(字)を抽出 [地区] 北部地区: 名護市、本部町、恩納村、今帰仁村 中部地区: 沖縄市、浦添市、宜野湾市、うるま市、読谷村、嘉手納町、北谷町、北中城村 南部地区: 糸満市、豊見城市、南城市、南風原町、与那原町、八重瀬町 那覇地区: 那覇市 【15～19歳】抽出世帯より無作為抽出
調査項目	● 日常の外出に関する設問 (通勤通学時の移動、通勤通学以外の日常移動、道路事情に対する意見等) ● 公共交通システム全般に対する意見聴取 (現状の交通機関、新たな公共交通システムに関する意見・要望等)

※平成22、23年度内閣府調査「沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システム導入可能性検討に向けた基礎調査」におけるモデルルート案

図表 - 1 回答者居住地・性別・年齢の分布状況 < 県民意識調査 >

	サンプル数 (人)	地域構成 (%)	性別構成			
			男性	女性	無回答	
北部	292	12.7%	49.7%	50.3%	-	
中部	1059	45.9%	49.9%	50.1%	-	
南部	452	19.6%	48.7%	51.3%	-	
那覇市	499	21.6%	48.5%	50.7%	0.8%	
不明	6	0.3%	50.0%	50.0%	-	
地域計	2308	100.0%	49.3%	50.5%	0.2%	
年齢 構成	10歳代	278	12.0%	51.1%	48.6%	0.4%
	20歳代	333	14.4%	50.2%	49.5%	0.3%
	30歳代	341	14.8%	49.0%	50.7%	0.3%
	40歳代	339	14.7%	46.3%	53.7%	-
	50歳代	335	14.5%	49.3%	50.7%	-
	60歳代	341	14.8%	49.3%	50.7%	-
	70歳代	284	12.3%	49.3%	50.7%	-
	80歳代以上	53	2.3%	58.5%	41.5%	-
	不明	4	0.2%	25.0%	50.0%	25.0%

観光客意識調査

調査時期	平成 24 年 10 月 24 日 (水) ~ 12 月 31 日 (月)
調査対象	沖縄県を訪れている観光客 [調査票配布数] : 7,000 部、[回収率] : 2.9%
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> ● 空港で調査員がアンケート票を配布し、郵送による回収 ● ホテルやレンタカーステーションなどでもアンケート票を配布
調査項目	<ul style="list-style-type: none"> ● 交通・周遊行動について ● 公共交通システム全般に対する意見・要望 ● 新たな公共交通システムに対する意識等
その他	回収率を上げるために、アンケート協力者には抽選で粗品を提供

図表 - 2 回答者居住地・年齢の分布状況 < 観光客意識調査 >

居住地	サンプル数 (人)	構成比	年代	サンプル数 (人)	構成比
北海道	7	3.5%	10歳代	2	1.0%
東北	3	1.5%	20歳代	28	14.0%
関東	82	41.0%	30歳代	42	21.0%
中部	24	12.0%	40歳代	32	16.0%
近畿	35	17.5%	50歳代	48	24.0%
中国	7	3.5%	60歳代	39	19.5%
四国	6	3.0%	70歳代	8	4.0%
九州・沖縄	36	18.0%	80歳代以上	1	0.5%
計	200	100.0%	計	200	100.0%

※居住地の地域は経済産業省の区分に基づく。

1 - 3 調査結果

1 - 3 - 1 回答者の属性 性別

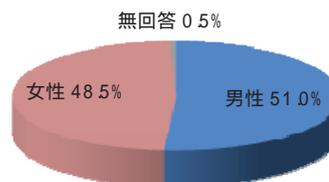
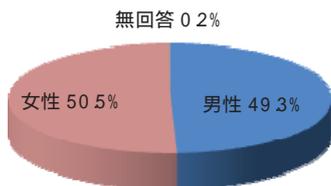
図表 - 3 回答者の性別

< 県民意識調査 >

< 観光客意識調査 >

(n=2308)

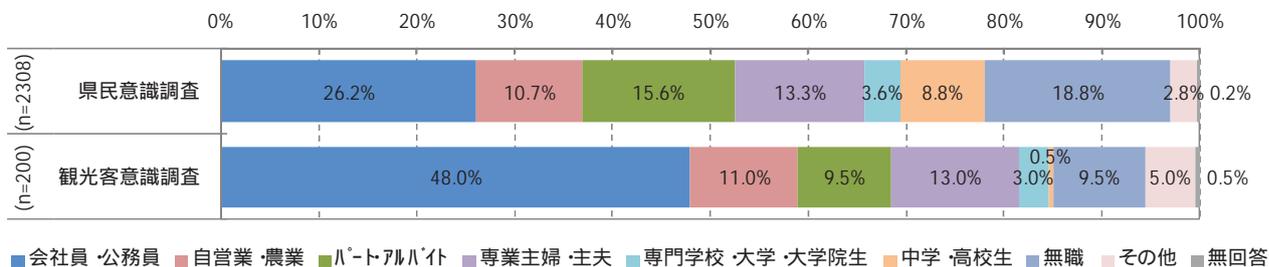
(n=200)



回答者の職業

県民意識調査では、会社員・公務員が30%弱、無職が20%弱を占め、次いで、パート・アルバイト、専業主婦・主夫、自営業・農業の順番が多い。中学・高校生のサンプルは10%弱となっている。観光客意識調査では、会社員・公務員が50%弱を占めており、次いで、専業主婦・主夫、自営業・農業となっている。

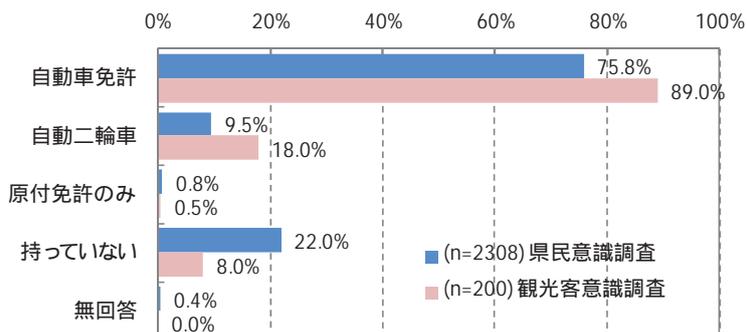
図表 - 4 回答者の職業



免許保有状況

県民意識調査では、自動車免許を保有する回答者は約76%であった。観光客意識調査では、回答者の殆どの方が自動車運転免許を保有（90%弱）していたが、約8%の方は、免許を保有していないと回答している。

図表 - 5 免許保有状況



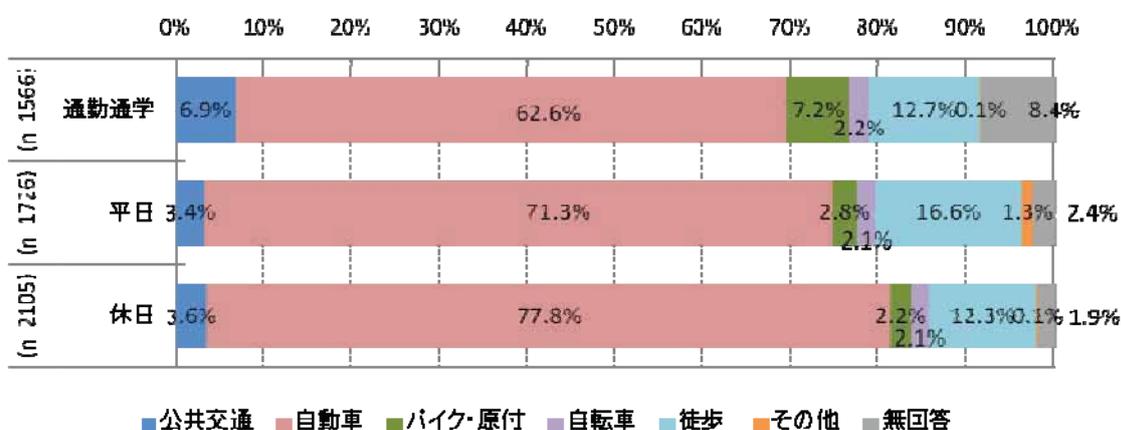
1 - 3 - 2 県内における利用交通手段

県民の利用交通手段

県内の交通は自動車利用に大きく依存しており、公共交通の利用は1割に満たない状況であり、通勤通学やその他の日常生活、休日における外出時の交通手段として、自動車利用（運転・送迎・タクシーを含む）が6～7割を占めている。

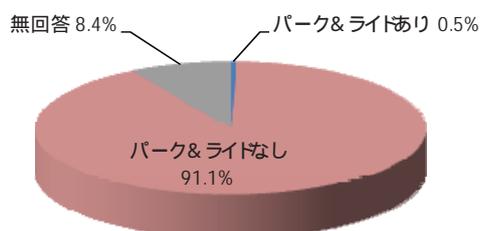
通勤通学において、公共交通と自動車を乗り継ぐパーク&ライドを実施されている方は、全体の0.5%とごく僅かしか見られなかった。沖縄本島全体的に通勤通学時の利用交通手段としては、自動車利用が高い傾向にあるが、地区別の通勤通学時の代表的利用交通手段に着目すると、沖縄県の北部（名護市や国頭郡）において公共交通の利用が低く、自動車利用が高い状況にある。

図表 - 6 日常行動における主利用交通手段 < 県民意識調査 >

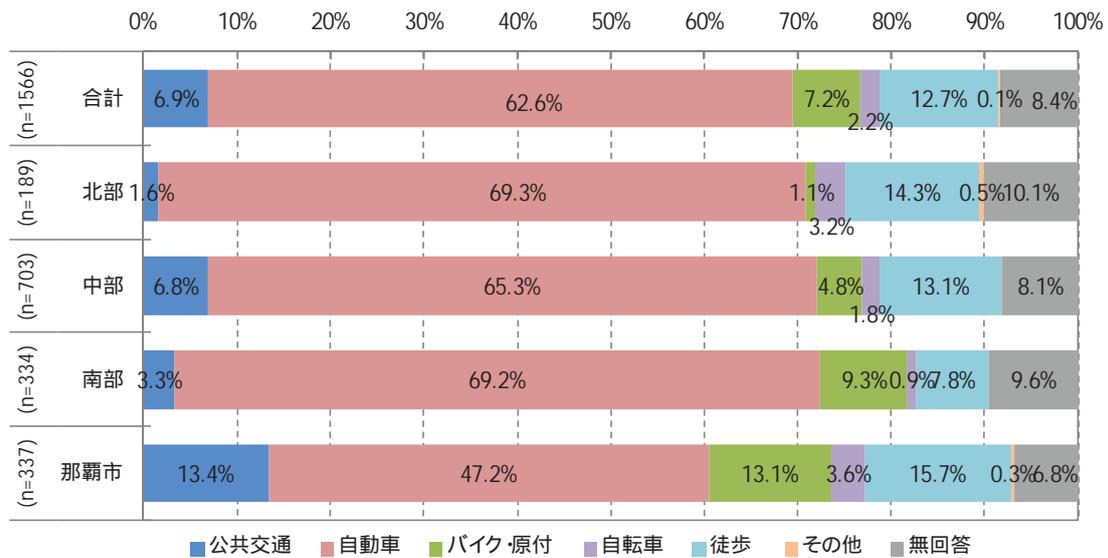


図表 - 7 通勤通学時におけるパーク&ライドの状況 < 県民意識調査 >

(n=1566)



図表 - 8 地区別の通勤通学時の主な利用交通手段 < 県民意識調査 >



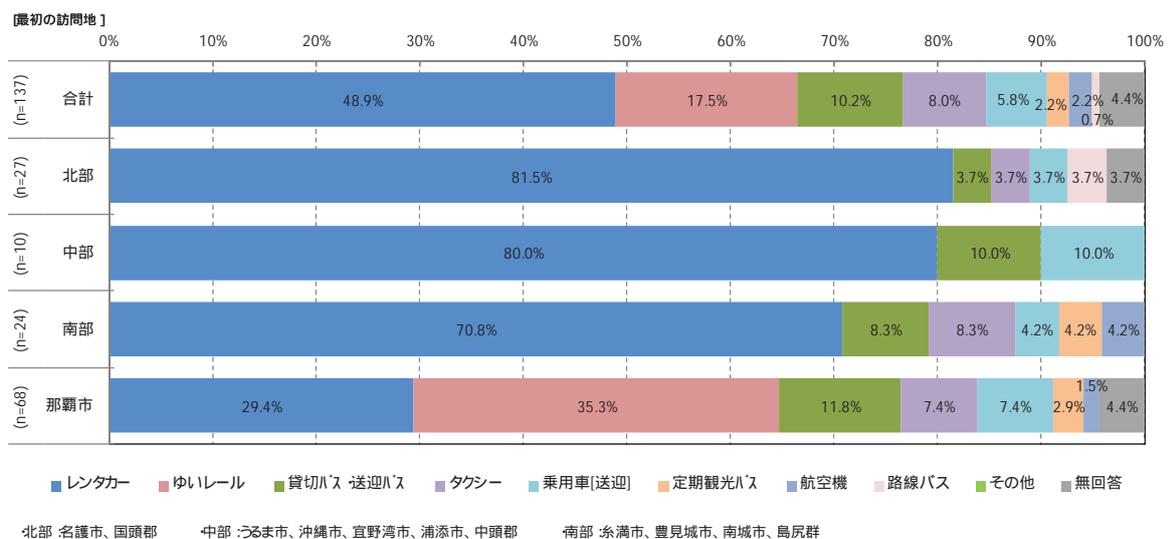
※合計は、居住地区無回答を含む

観光目的旅行者の利用交通手段

港湾・空港などから最初の交通手段として、レンタカーを利用する旅行者は全体の約半数にのぼり、本島北部や中部を最初の目的地とする場合は、レンタカー利用率は約8割と更に高くなっている。

一方で、ゆいレールの利用は全サンプルでは2割弱であるが、最初の訪問地が那覇市の場合には3割以上の方がゆいレールを利用している。

図表 - 9 港湾、空港などから最初の交通手段 < 観光客意識調査 >



※合計は、最初の訪問地無回答を含む

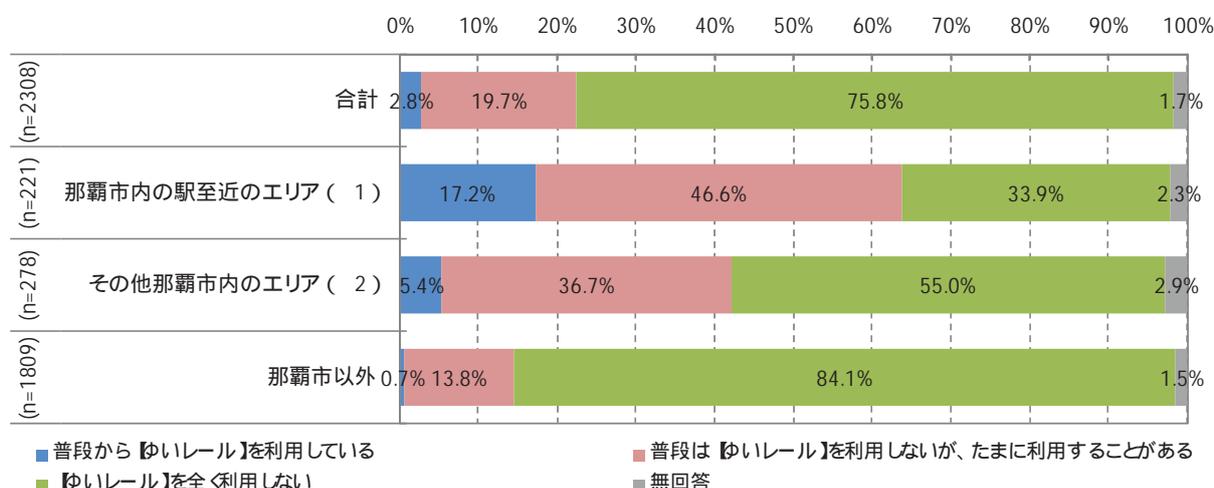
1 - 3 - 3 公共交通の利用状況と利用シーン

ゆいレール

普段からゆいレールを利用する方は全体の約3%、たまに利用する方をあわせても全体で20%程度である。ただし、ゆいレール駅の至近エリアに居住している方に限定すると、普段からゆいレールを利用する方は20%弱、たまに利用する方を合わせると60%以上の方が利用している。ゆいレールが利用できる、あるいは、利用しやすい環境にあれば、様々な場面でゆいレールを利用する機会が広がると考えられる。

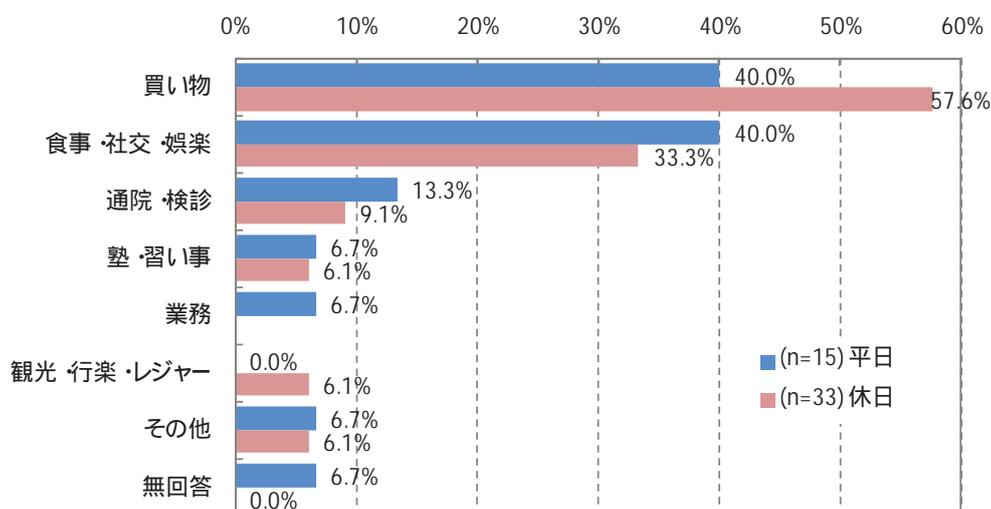
通勤通学以外でゆいレールを利用するときの行動目的は、平日、休日を問わず、「買い物」や「食事・社交・娯楽」が多い。

図表 - 10 ゆいレールの利用状況 < 県民意識調査 >



※1 那覇市内の駅至近のエリア：田原、壺川、牧志、三原、銘苅、首里大中町、首里久場川町、首里鳥堀町
 ※2 その他那覇市内のエリア：高良、宇栄原、西、樋川、国場、識名、上間、松川、首里池端町、首里大名町、首里石嶺町

図表 - 11 ゆいレールの利用シーン（通勤通学以外の平日、休日の内容） < 県民意識調査 >



※平日、休日において通勤通学以外で1番目、2番目に多い行動目的を集計した結果。

- 1 たまにゆいレールを利用するシーンとして多いもの（自由回答より集約）

- ◆空港を利用する、空港に行くとき（旅行、出張、見送りなど）
- ◆ゆいレール沿線の目的地（ショッピングモール、市立病院、奥武山公園、など）に行くとき
- ◆おもろまち方面、国際通り方面等に遊びや買い物等に行くとき
- ◆飲み会、食事に行くとき
- ◆祭りやイベントに行くとき（駐車場の確保が難しいとき）
- ◆車検や故障などで車の都合がつかないとき
- ◆ゆいレール自体に乗りたくなかったとき
- ◆那覇市内が混雑していると予想されるとき
- ◆知人と待ち合わせをするとき など

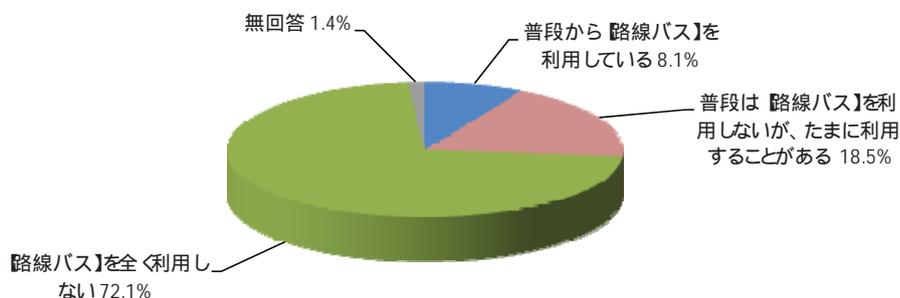
路線バス

普段から路線バスを利用する方は約8%、たまに利用する方をあわせると全体の4分の1程度の利用状況となっている。

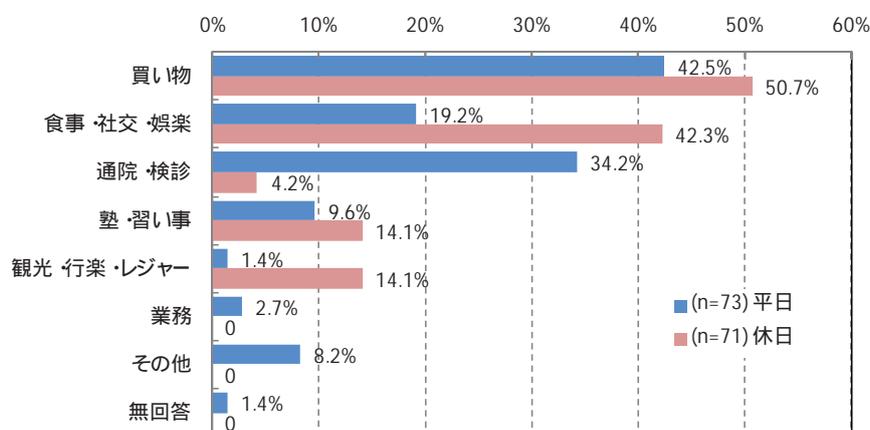
平日における通勤通学以外の路線バスの利用は、「買い物」や「通勤・検診」での利用が多く、休日では「買い物」や「食事・社交・娯楽」での利用が多い。

図表 - 12 路線バスの利用状況 < 県民意識調査 >

(n=2308)



図表 - 13 路線バスの利用シーン（通勤通学以外の平日、休日の内容） < 県民意識調査 >



※平日、休日において通勤通学以外で1番目、2番目に多い行動目的を集計した結果。

- 1 たまに路線バスを利用するシーンとして多いもの（自由回答より集約）

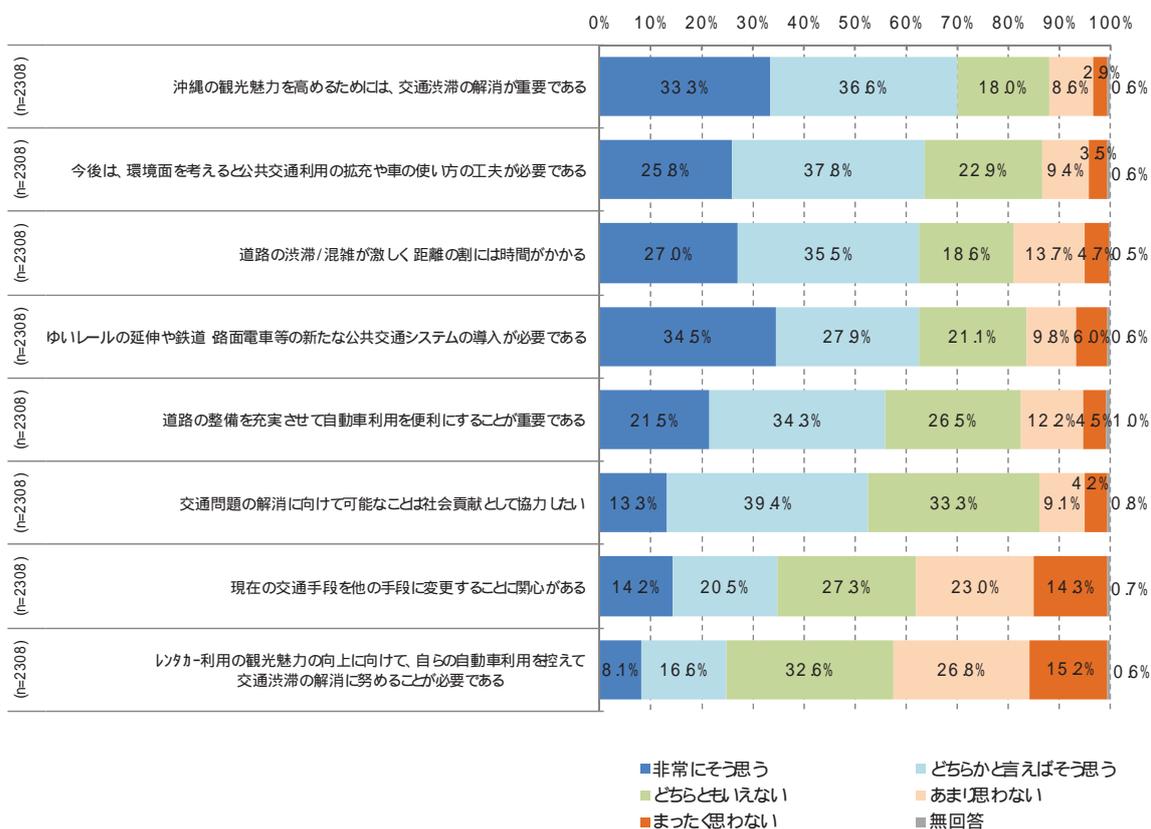
- ◆車検や故障などで車の都合がつかない、家族等で送迎してもらえない人がいないとき
- ◆飲み会、食事に行くとき
- ◆空港を利用する、空港に行くとき（旅行、出張、見送りなど）
- ◆祭りやイベントに行くとき（駐車場の確保が難しいとき）
- ◆病院に行くとき
- ◆天候が悪いとき（普段は、自転車、バイク、徒歩で移動する場合）
- ◆最寄りのゆいレール駅までの移動交通手段として利用するとき
- ◆遊びや買い物に行くとき など

1 - 3 - 4 沖縄本島の交通事情に対する意見

県民意識調査からは、現状の沖縄本島における県民の道路渋滞／混雑に対する認識は高く、また、「沖縄の観光魅力を高めるためには、交通渋滞の解消が重要である」という意見も多く聞かれる。また、「今後は、環境面を考えると公共交通利用の拡充や車の使い方の工夫が必要である」と認識している方は60%以上に達し、「交通問題の解消に向けて可能なことは社会貢献として協力したい」という意見は半数以上と関心が高くなっているが、現段階において、実際に自らの交通手段を変更しようとする意向は30～40%割程度と必ずしも高いとはいえない。

ゆいレール延伸や新たな公共交通システム導入の必要性を訴える声は、60%以上にのぼる一方で、「道路の整備を充実させて自動車利用を便利にすることが重要である」という声も多くよせられている。

図表 - 14 沖縄本島の交通事情に対する意見 < 県民意識調査 >

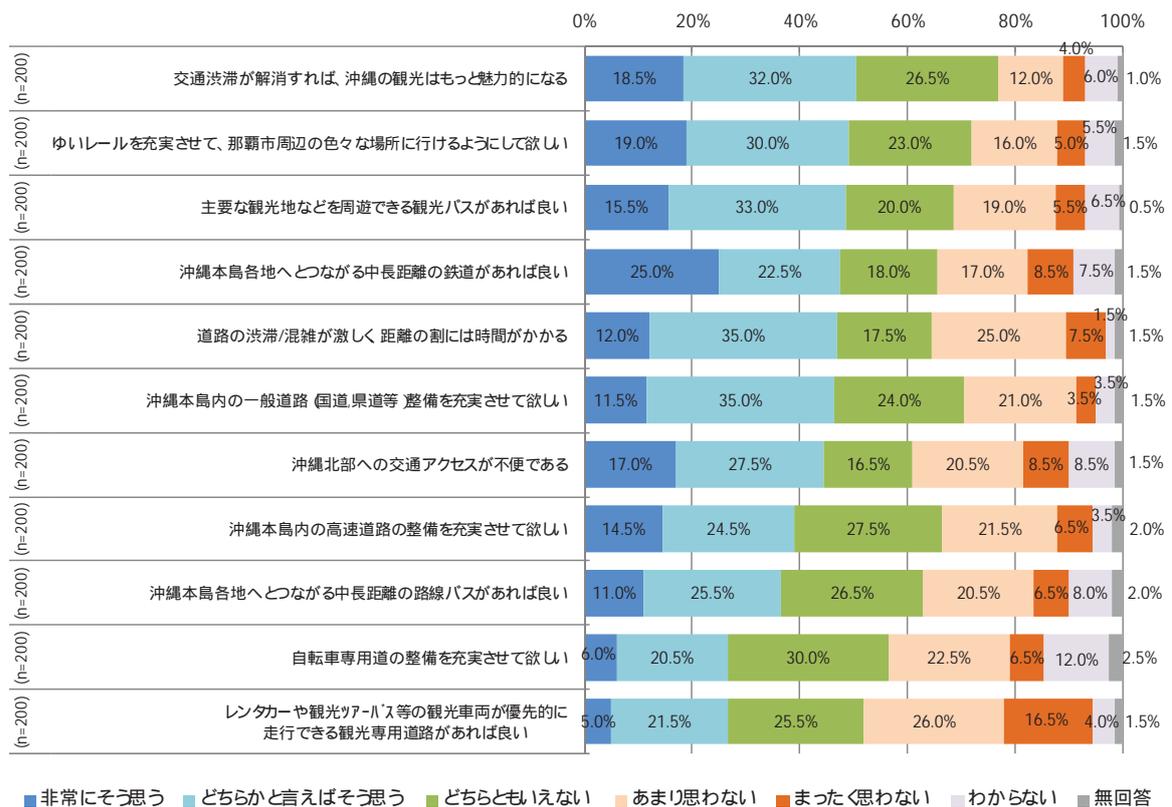


次に、観光客意識調査からは、沖縄本島の「道路の渋滞／混雑が激しい」という意見が 50%弱にのぼり、「交通渋滞が解消すれば、沖縄の観光はもっと魅力的になる」という声も多い。

観光客の移動に際して、「沖縄北部への交通アクセスが不便である」という認識が高く、本島各地へとつながる中長距離の鉄道や主要観光地を周遊できる観光バス等に対するニーズも確認できる。

那覇市内の移動については、「ゆいレールを充実させて、那覇市周辺の色々な場所に行けるようにしてほしい」という声もよせられている。

図表 - 15 沖縄本島の交通事情に対する意見 <観光客意識調査>



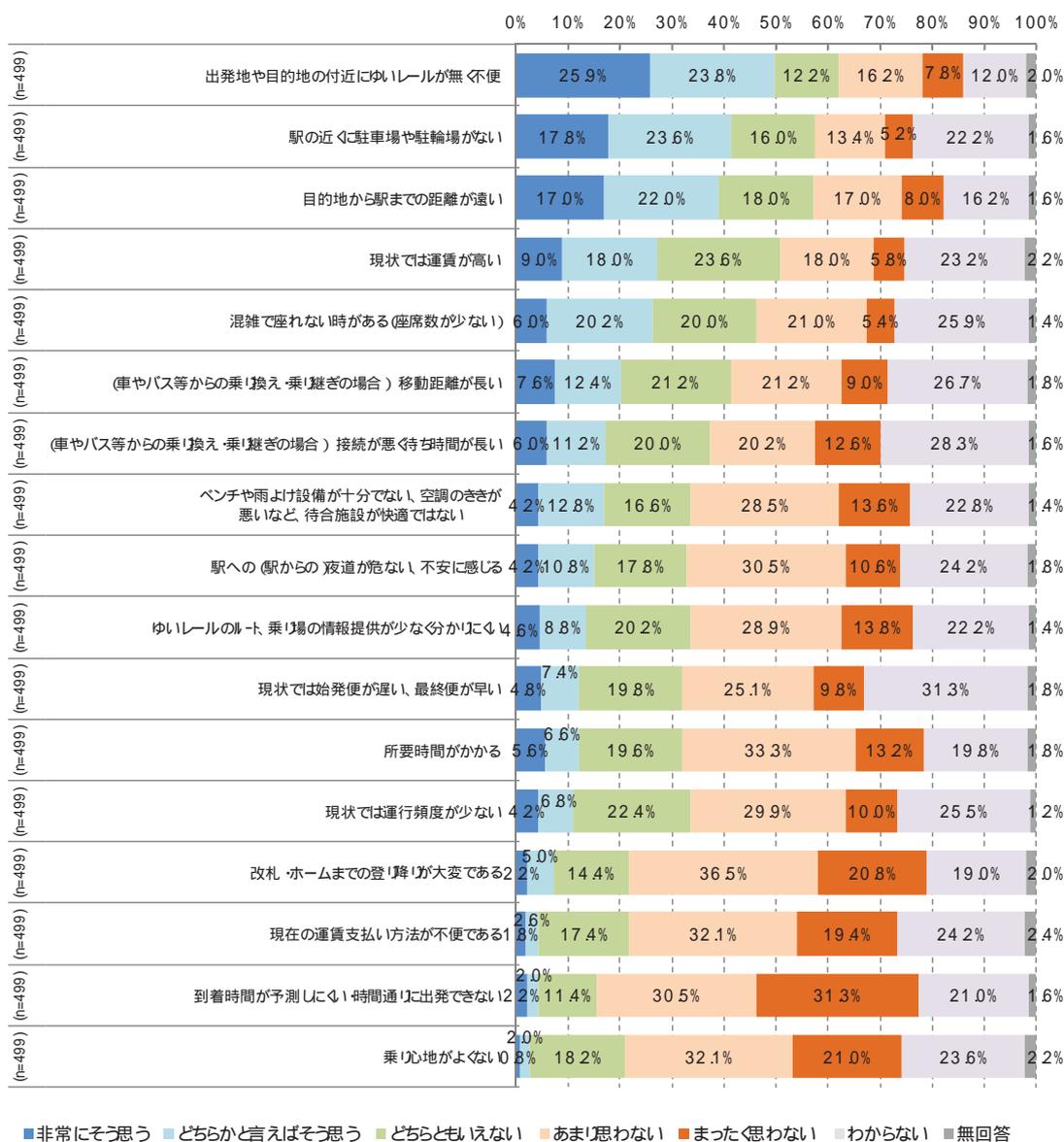
1 - 3 - 5 現状の公共交通に対する意見

ゆいレール

ゆいレールの利用に対する不満や不便に感じることで、県民意識調査からは、「出発地や目的地の付近にゆいレールが無く不便」という意見が多く、ゆいレールを利用しやすい、あるいは利用できるエリアが限られていることへの問題意識が高いと言える。

加えて、「駅の近くに駐車場や駐輪場がない」という意見が多く、他の交通手段からの乗り継ぎに際して、不便さを感じている方も多く見られる。

図表 - 16 現状のゆいレールに対する意見 < 県民意識調査 >

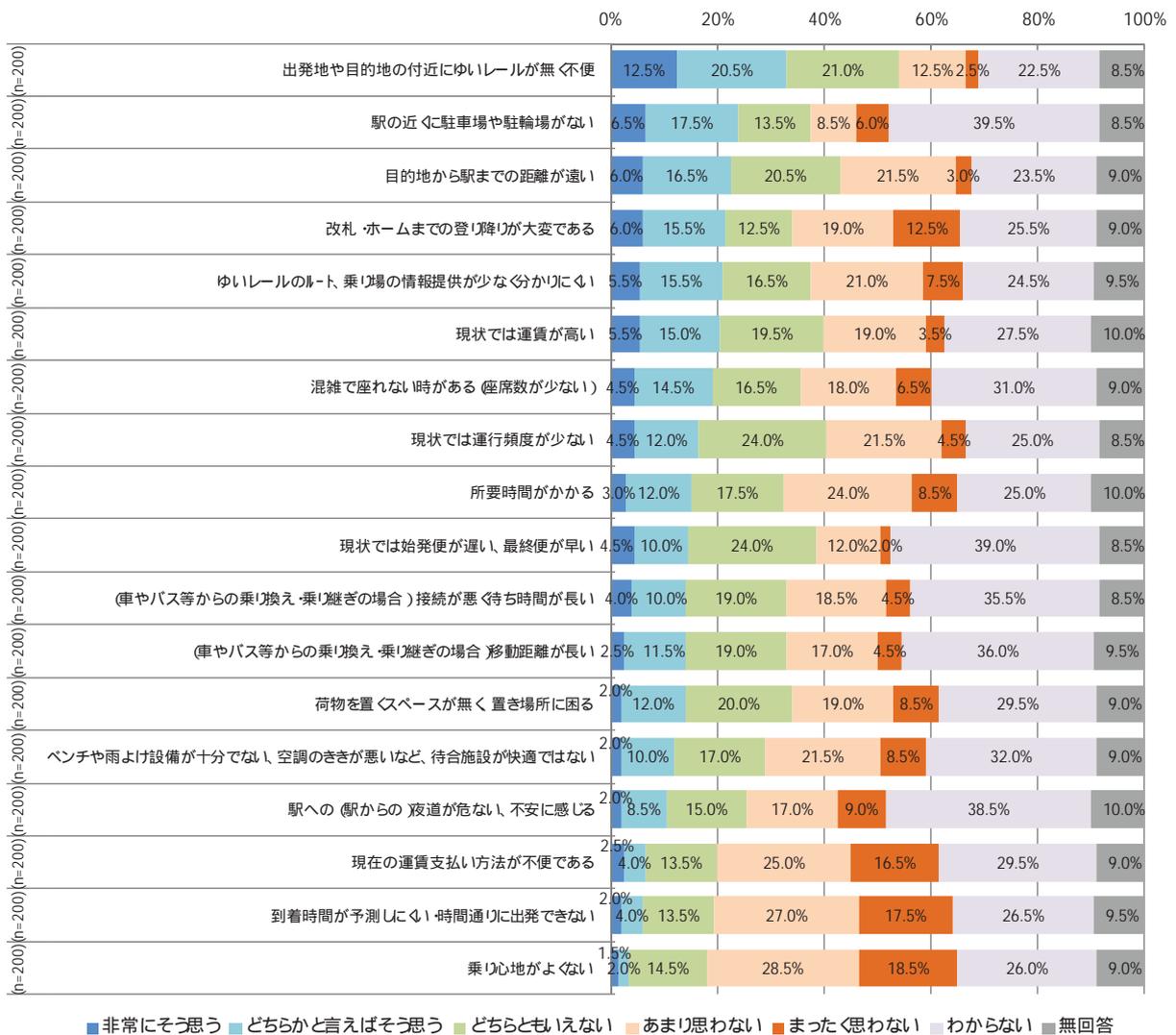


※那覇市在住の回答者 499 人のご意見

観光客意識調査からは、県民意識調査と同様に、「出発地や目的地の付近にゆいレールが無く不便」とする意見が多く、那覇市内の様々な観光地へ行けるような交通手段として、ゆいレールの拡充を求める声も多く聞かれる。

「駅の近くに駐輪場や駐車場がない」、「改札・ホームまでの登り降りが大変である」、「ゆいレールのルート、乗り場の情報提供が少なく分かりにくい」という意見も多く、利用しやすい環境整備の推進、駅を案内する街中でのサイン表示や観光客向けの情報提供のあり方についても改善して欲しいという意見が寄せられている。

図表 - 17 現状のゆいレールに対する意見 <観光客意識調査>

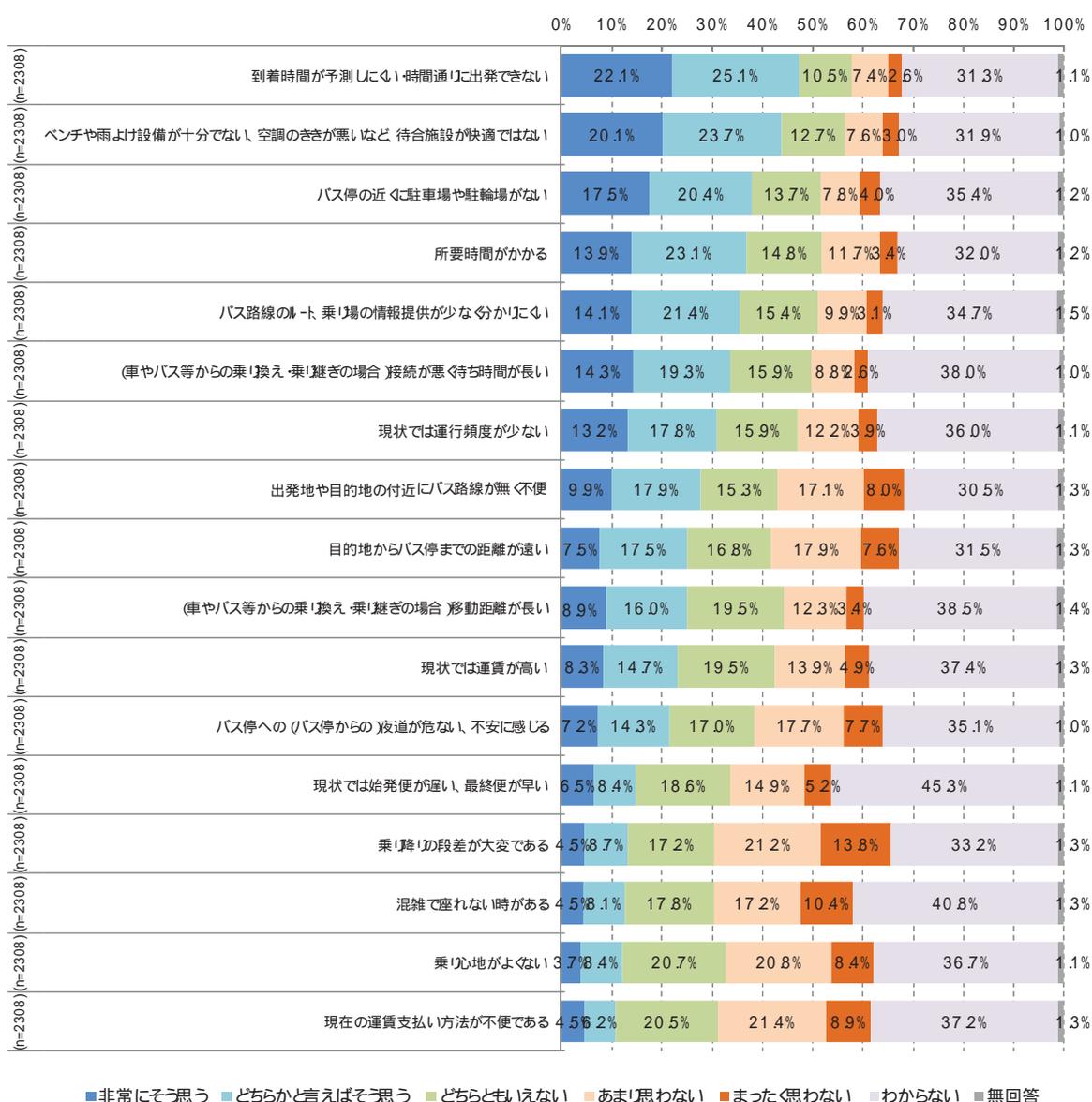


路線バス

路線バスの利用に対する不満や不便に感じることで、県民意識調査からは、「到着時間が予測しにくい・時間通りに出発できない」、「ベンチや雨よけ設備が十分でない、空調のききが悪いなど待合施設が快適ではない」ことに対する意見が多く、交通渋滞などの交通環境に起因する問題に加えて、公共交通としてのサービス提供水準への問題意識が高くなっている。

また、バス路線・バス停に関する情報提供のあり方、乗り換え・乗り継ぎ利便性に対する問題に関する意見も多く、路線バスのサービス水準の向上のほか、他の交通手段を含めた総合的な交通体系の充実が必要であると考えられる。

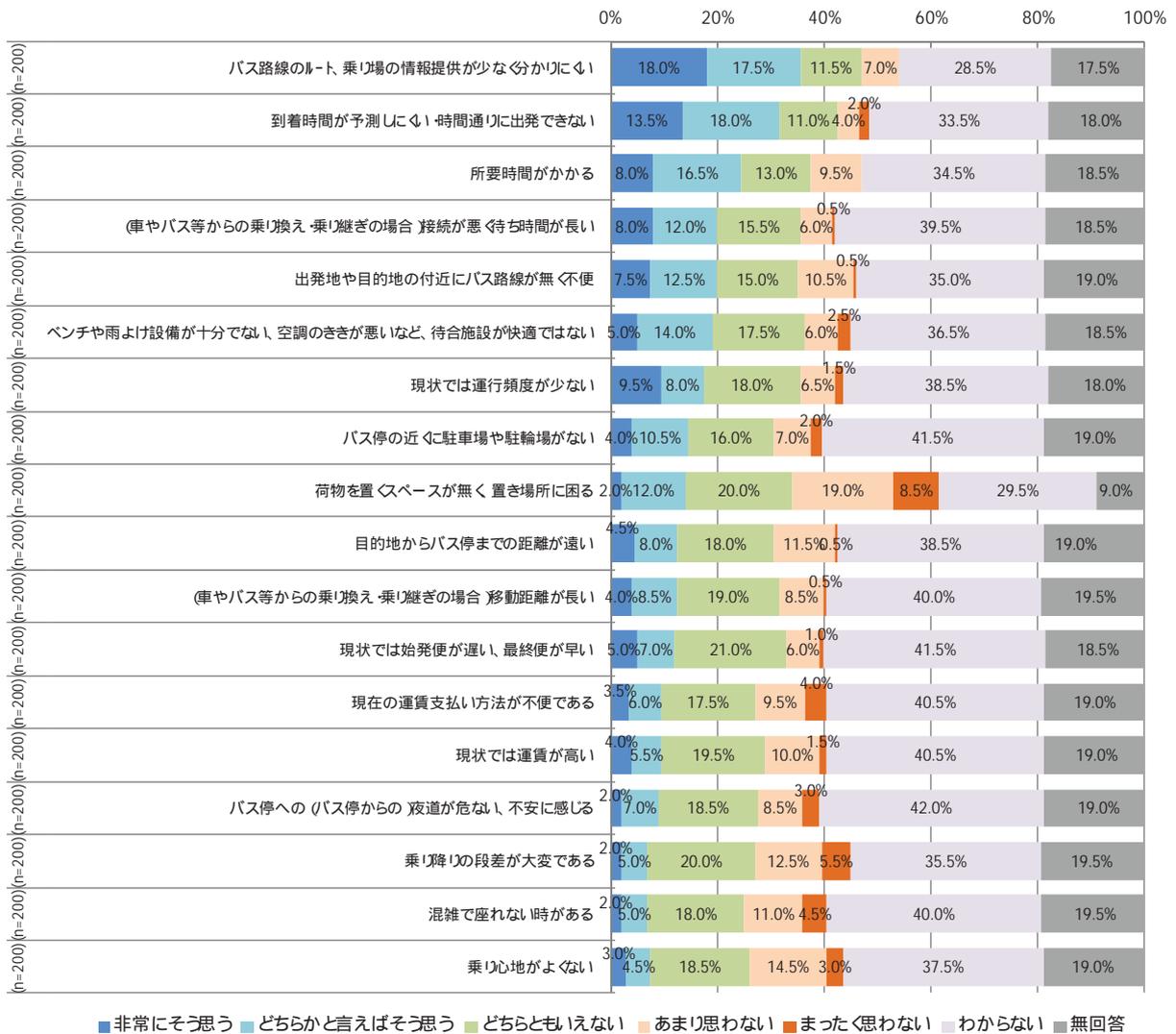
図表 - 18 現状の路線バスに対する意見 < 県民意識調査 >



次に、観光客意識調査からは、「バス路線のルート、乗り場の情報提供が少なく分かりにくい」、「到着時間が予想しにくい・時間通りに出発できない」という意見が多い。

県民意識調査、観光客意識調査ともに、路線バスの利用に対する意見や不便な点として「わからない」という回答が多く、路線バス利用の関心が薄いことがうかがえる。

図表 - 19 現状の路線バスに対する意見 <観光客意識調査>



1 - 3 - 6 新たな公共交通システムが整備された場合の利用意向

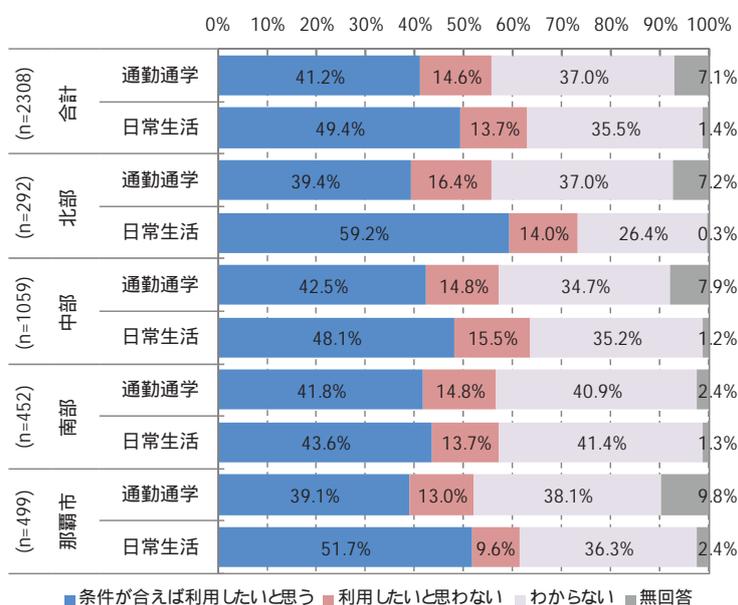
利用意向

沖縄本島を南北に縦貫する鉄道や路面電車などの新たな公共交通システムが整備された場合の利用意向は、①通勤通学時の移動手段としては概ね 40～50%程度、②その他の日常生活の移動手段としては概ね 40～60%程度の方から、条件があえば利用したいという回答であった。

また、地域別の回答の傾向に着目すると、①通勤通学時の移動手段としては、本島中部エリアの利用意向がやや強い傾向にあり、②その他の日常生活の移動手段としては、本島北部エリアの利用意向が強く、新たな公共交通システムに対して期待があらわれている。

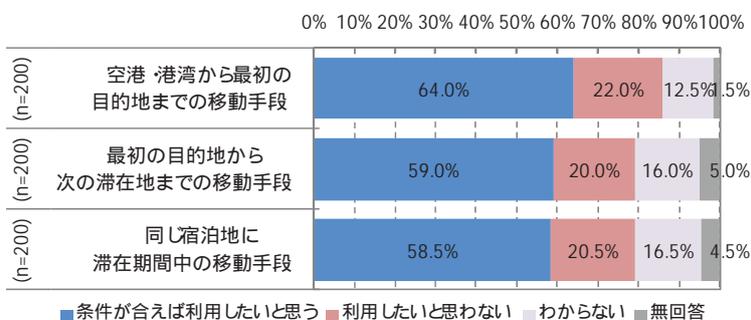
観光客意識調査からは 60%程度の方から新たな公共交通システムを利用したいという声が聞かれた。

図表 - 20 新たな公共交通システムに対する県民の利用意向 < 県民意識調査 >



- ①通勤通学時の移動手段としての利用意向
- ②通勤通学以外の日常生活の移動手段としての利用意向

図表 - 21 新たな公共交通システムに対する観光客の利用意向 < 観光客意識調査 >



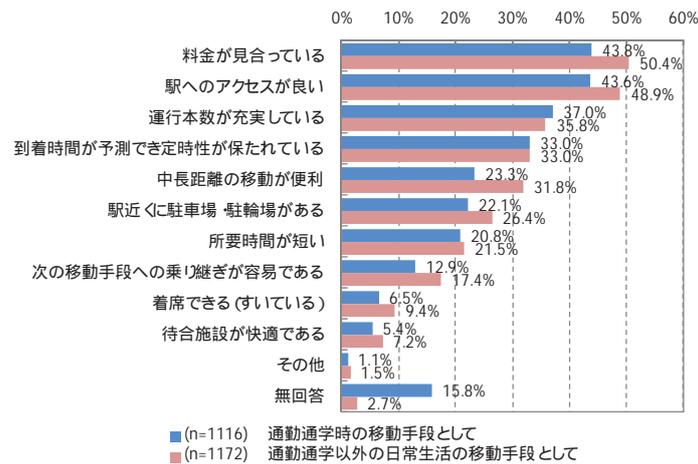
- ①空港・港湾から最初の目的地までの移動手段としての利用意向
- ②最初の目的地から次の滞在地までの移動手段としての利用意向
- ③同じ宿泊地に滞在期間中の移動手段としての利用意向

新たな公共交通システムの利用に際して重視する条件

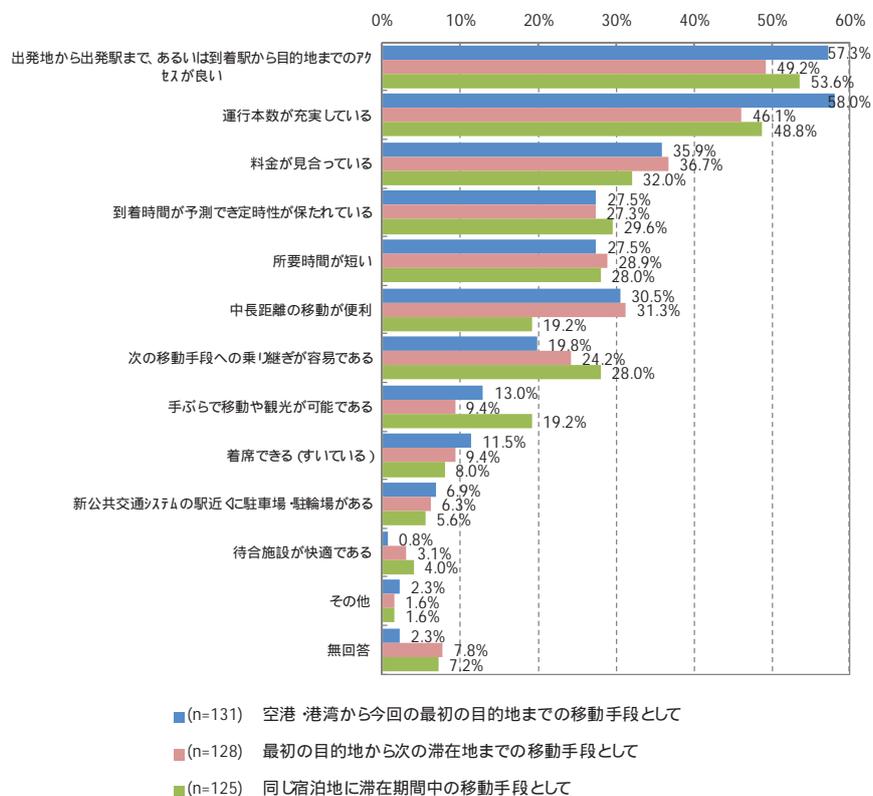
新たな公共交通システムの利用を想定した際に重視する条件としては、県民意識調査からは、「料金」への関心が最も高く、続いて「駅への交通アクセス」に対する関心が高い。その他、「運行本数」、「定時性の確保」を重視する声が多い。

観光客意識調査からは、「運行本数」や、「駅への交通アクセス」に対する関心が高い。

図表 - 22 新たな公共交通システムの利用に際して重視する条件 < 県民意識調査 >



図表 - 23 新たな公共交通システムの利用に際して重視する条件 < 観光客意識調査 >



1 - 3 - 7 沖縄本島の公共交通に対する自由意見

県民意識調査結果の自由意見

- 1 現在の交通事情に対する問題意識

- ・沖縄本島の都市部では道路が複雑に張り巡らされ、交差点が増えることで混雑を招き、また、自動車利用を前提とした街づくりがなされていることも、自動車交通量を増やす要因になっている。
- ・道路の渋滞は年々ひどくなり、自動車の利用も面倒に感じる状況も出てきている。
- ・自動車利用は便利であるが、沖縄本島の道路事情は早急に解決していかなければいけない課題である。
- ・ゆいレールを利用したいが、最寄りの駅まで行くためには自動車以外の交通手段がなく、また、駅周辺には駐車場がない。どうせ自動車を利用するならそのまま目的地まで行った方が早くて便利である。
- ・ゆいレールは一部の地域の人たちだけが恩恵を受けていると感じる。税金を支払っているのに利用できない環境にあることは不公平であり不満がある。
- ・都市部だけが公共交通が比較的充実していると感じる。都市部以外では、公共交通が不十分であり、利用者の減少→サービスの低下→利用者の減少と、負のスパイラルに陥っている。
- ・現在のゆいレールや路線バス等の公共交通には、改善が必要な点が多くある。

ゆいレール：延伸、駅周辺の駐車場等の整備、利用促進のための割引制度の導入、他の公共交通との連携強化など
路線バス：バス停への雨よけ・日よけ・ベンチの設置など待合設備の充実、定刻運行の徹底、運転マナーの向上、車内美化、案内表記の充実、利用しやすい運行ルート・運行本数の再考など

- 2 新たな交通システムとして鉄道・路面電車などの鉄軌道の整備を求める声

- ・沖縄本島は南北に長いので、鉄軌道の縦貫できる新たな交通システムができれば便利になると思う。鉄道などの駅が、家の近くにあれば利用したい。
- ・鉄道などが整備され自動車の利用が少なくなれば環境面にも良いと思う。
- ・那覇市だけでなく沖縄全域に、なるべく初期の建設コストがかからない方法で、ゆいレールや路面電車や鉄道などを臨機応変に設置して欲しい。
- ・鉄道などが整備された場合でも、一部の人たちだけが利用できるものではなく、駅などを拠点として接続する交通網を充実させ、県民全体が利用できるようにすることが望ましい。

- 3 鉄軌道の導入に対する慎重意見

- ・これだけ自動車利用が増えている現在において、鉄道が整備されても利用を切り替える人がどれくらいいるのか。
- ・鉄道等を新設しても黒字になるとは思えない。採算性をきちんと検討して欲しい。
- ・公共交通だとしても、費用対効果を十分に検証し、人口や産業分布を考慮するべきである。

- 4 移動制約を持つ人にも便利な交通システムの実現を求める声

- ・高齢化が進んでいる中で、自立しながら老いていける環境が、生きていく上での活力になる。移動することを他人に頼むしかない高齢者の為に、鉄道、路面電車等の公共交通機関が整備される日が来る事を望む。
- ・現在は、幹線道路沿いに住んでおり、交通の不便さを感じた事はないが、今後高齢となった場合には運転免許を返上しようと考えている。高齢者も利用しやすい交通システムを構築して欲しい。

- 5 総合交通体系の視点での検討の必要性を求める声

- ・普段自動車を利用している人が、時々でも公共交通を利用できる状況や仕組みが整っていれば良い。
- ・安くて早く、渋滞に関係のない交通システムが必要です。車がなくても生活できるようになればいいと思う。
- ・今後は公共交通が利用できる環境を整えたいと思うが、近場だとどうしても自動車利用になってしまう。県民の意識を変え、公共交通利用の充実を図ることができれば良い。

観光客意識調査結果の自由意見

- 1 本島の交通手段や交通状況に対する意見

- ・旅行行程が限られていたためレンタカーで移動したが、渋滞により交通状況を予測することが難しく時間が読めないため、北部にある観光地へ行くことを断念した。
- ・路線バスが複雑で、定時性がないため気軽に利用することができなかった。
- ・北部に向かうために高速バスを利用したが、早い時間帯で運行が終わっており、便利な交通手段とは思えなかった。
- ・沖縄の渋滞はある種の名物になっているが、外国人観光客はどのように感じているのかと考えてしまう。
- ・バイクや自動車の運転マナーについて良い印象がなく、事故を起こしそうで危険を感じる場面があった。
- ・交通渋滞とバスやトラックの排気ガスが激しく、訪れるたびに残念に思う。
- ・長距離移動が非常に不便であり、本島を縦断する鉄道などが整備されれば、観光利用だけでなくビジネス利用にも必要であると感じる。
- ・本島南北の交通手段から東西への充実した交通アクセスと観光各所へのアクセス、空港から北部へのアクセスの充実など、観光面やビジネス面における使い易さが必要である。
- ・沖縄本島の公共交通機関の充実は渋滞の解消に役立つと思うが、鉄道や高速道路を整備し過ぎて自然が失われるのは悲しい。沖縄の魅力は美しい自然であるため、ゆっくり移動し、ゆっくり見るのも良い。
- ・新たな公共交通システムは、沖縄独特のまちなみに溶け込むような交通機関であって欲しい。
- ・観光は沖縄の重要な産業だと思うが、観光ばかりに重点をおいた公共交通の整備だけでなく、沖縄本来の伝統を残し、県民の方の生活を不便にしないような公共交通を検討して欲しい。

第2章 県民説明会

2 - 1 県民説明会概要

新しい公共交通システムの検討にあたり、平成22年度、23年度に実施された「沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システム導入可能性検討に向けた基礎調査」を分かりやすく紹介するとともに、これからの沖縄の公共交通のあり方や可能性に関する意見交換の場とすることを目的として県民説明会を開催した。

名 称	沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システム導入可能性検討に向けた基礎調査県民説明会
日 時	平成24年10月3日(水) 14時30分～16時30分(※開場14時)
場 所	沖縄県立博物館・美術館 講堂(住所:那覇市おもろまち3丁目1-1)
入 場 料	無料
来 場 者 数	115名
主 催	内閣府沖縄総合事務局
事 務 局	株式会社海邦総研
プ ロ グ ラ ム	14:00-14:30 開場 14:30-14:35 本日の説明会の趣旨説明(沖縄総合事務局) 14:35-15:15 過年度調査の報告(内閣府担当者) 15:15-15:20 休憩 15:20-16:15 パネルディスカッション 16:15-16:30 今年度調査へのご協力のお願い
出 演 者 (※敬称略)	①過年度調査の報告 ◆小池 智歌 - 内閣府政策統括官(沖縄政策担当)付参事官(企画担当) 付参事官補佐 ②パネルディスカッション ◆照屋 寛之 - 沖縄国際大学法学部教授(行政学・交通政策) ◆高崎 園子 - 沖縄タイムス社編集局社会部(県民の足考・担当記者) ◆多嘉良 斉 - 沖縄県企画部交通政策課副参事 ◆芦原 嘉宏 - 内閣府政策統括官(沖縄政策担当)付参事官(企画担当) 付参事官補佐 ③進行 ◆島田 尚徳 - 株式会社海邦総研経営企画部研究員

《作成チラシ》

沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システム導入可能性検討に向けた基礎調査

県民説明会

日時：平成24年10月3日（水）
14:30～16:30（開場 14:00） **入場無料**

場所：沖縄県立博物館・美術館 講堂

**沖縄の公共交通について
考えてみませんか？**

県民説明といわれる沖縄県。
政策的に望ましい道路網
がれども実態に即応できて
人にも環境にもやさしい
効果的な乗り物として
全国的にも注目が集まる
公共交通あり方。
これからの沖縄は？

詳しくは資料を
ご覧ください。

【主催】沖縄県・沖縄交通振興局 【協賛】沖縄県立博物館、読売、朝日、毎日
TEL：098-869-7800
沖縄県立博物館 〒901-8212

沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システム
導入可能性検討に向けた基礎調査 県民説明会

主なプログラム

1. 過年度調査結果のご説明
平成23年度～24年度までの調査で
実施された調査結果のご説明（約15分）
2. パネルディスカッション
公共交通システムの重要性や今後の展望に
関する意見交換（約20分）
交通費、乗車時間、乗客数の増加などで
現在の公共交通システムについて
公共交通のあり方に関するご意見を
伺います。
3. 県民意見調査ご協力のおお願い
（約5分）

説明会の目的

沖縄県における公共交通は、自動車への依存度
が高くなり、公共交通の利便性、質の向上が
求められています。調査結果を広く、県民に知
りていただくことで、公共交通のあり方
の議論が深まると期待します。

本説明会では、沖縄県内各地の自治体、市民
団体、事業者の意見や今後の展望について、本県
民、県民団体の皆様と意見交換を目的とし、本
県民説明会の開催となります。本県民説明会
を通じて、公共交通のあり方に関するご意見
やご要望を伺い、今後の公共交通のあり方
についてご意見を伺います。

公共交通
沖縄県立博物館・美術館
【開催時間】
14時30分～16時30分（開場14時）
【参加費】無料
【申し込み】
申し込みは不要です。当日は、会場にて、事前予約
の必要はありません。
会場にお入りになる方は必ず公共交通システム導入可能性
検討に向けた基礎調査のパンフレットを
お持ちください。
【お問い合わせ】
沖縄県立博物館・美術館 企画課
〒901-8212 沖縄県立博物館

沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システム導入可能性検討に向けた基礎調査

県民説明会 参加申込書

【お申し込みの注意】アンケート用紙を必ずお持ちください。FAXでお申し込みください。

FAX: 098-869-7800 事務局：株式会社海神総研
総研 読売、朝日、毎日 TEL: 098-869-8700

お名前	姓	電話番号
ご住所	〒〒〒	

第3章 タウンミーティング

3-1 タウンミーティング概要

沖縄県内の新しい公共交通システムの検討にあたり、平成22年度、23年度に実施された「沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システム導入可能性検討に向けた基礎調査」および今年度実施した「県民等意識調査」を分かりやすく紹介するとともに、県民との意見交換を行うタウンミーティングを開催した。

《会場・日程》 県内4カ所で開催

地域	日時	会場
中部地域	1月25日（金）午後2時30分～	沖縄市農民研修センター
北部地域	1月29日（火）午後2時30分～	名護市産業支援センター
南部地域	1月30日（水）午後6時30分～	与那原町社会福祉センター
那覇地域	2月8日（金）午後1時30分～	沖縄県立博物館・美術館 講堂

《登壇有識者一覧》

氏名	所属・役職	登壇日
1 池田 孝之	琉球大学 名誉教授	1月25日、29日、2月8日
2 照屋 寛之	沖縄国際大学 法学部教授	1月30日、2月8日
3 中村 司	NPO法人しまづくりネット 理事長	1月29日
4 親川 修	NPO法人バリアフリーネットワーク会議代表	1月25日、30日
5 阪井 暖子	NPO法人地域協働クリエイティストディチーム 代表	2月8日
6 久野 譜也	筑波大学教授	2月8日（特別講演のみ）

《作成チラシ》

沖縄における鉄軌道をはじめとする新たな公共交通システムに係る県民意識等実態把握調査
タウンミーティング

【主なプログラム】
1. 平成22、23年度調査結果の説明
2. 今年度「県民意識等実態把握調査」結果の説明
3. 公共交通システムに関する意見交換

入場無料

沖縄の公共交通について考えてみませんか？
県4つの地域で開催いたします。地域によって開催日が異なります。

【中部地域】
開催日：2013年1月25日（金）
会場：沖縄市農民研修センター
日時：午後2時30分～午後5時

【北部地域】
開催日：2013年1月29日（火）
会場：名護市産業支援センター
日時：午後2時30分～午後5時

【南部地域】
開催日：2013年1月30日（水）
会場：与那原町社会福祉センター
日時：午後6時30分～午後9時

【那覇地域】
開催日：2013年2月8日（金）
会場：沖縄県立博物館・美術館 講堂
日時：午後1時30分～午後5時

【詳細】株式会社産研総研社 | <http://www.sho-hi.jp/> | 申込用紙は裏面です

タウンミーティング会場地図

【中部会場】 沖縄市農民研修センター
2013年1月25日（金） 開催：午後2時30分～午後5時
会場：沖縄市1-1-1 1F 100号室
電話：098-869-7800

【北部会場】 名護市産業支援センター
2013年1月29日（火） 開催：午後2時30分～午後5時
会場：名護市1-1-1 1F 100号室
電話：098-869-7800

【南部会場】 与那原町社会福祉センター
2013年1月30日（水） 開催：午後6時30分～午後9時
会場：与那原町1-1-1 1F 100号室
電話：098-869-7800

【那覇会場】 沖縄県立博物館・美術館 講堂
2013年2月8日（金） 開催：午後1時30分～午後5時
会場：那覇市1-1-1 1F 100号室
電話：098-869-7800

鉄軌道等県民意識調査 タウンミーティング 参加申込書
【お申込み方法】事前の申込書をお返しいただく。1Fで受付させていただきます。
FAX: 098-869-7800 事務局：株式会社産研総研社
所在地：那覇、那覇 TEL: 098-869-7800

参加されたい会場 1. 名護市産業支援センター 2. 沖縄市農民研修センター
3. 沖縄県立博物館・美術館 4. 与那原町社会福祉センター

お名前 _____ 姓 名 _____ 電話番号 _____
ご住所 _____ FAX _____

3 - 3 意見交換内容

パネルディスカッションにおいては、公共交通システムの利便性や可能性などを有識者と、沖縄県担当者、内閣府担当者と意見交換を行った。

テーマとしては以下の3点を題材に議論を行った。

- 沖縄における公共交通システムの課題と、検討中の新たな公共交通システムは必要かどうか
- 内閣府の過年度調査についての感想、今後の調査に対する提案など
- 県民等意識調査についての感想、読み取れること、今後の調査に対する提案など

※質問については、事前に配布した質問票に記入してもらい、休憩5分間で回収。パネルディスカッションの最後に、意見交換を実施した。

3 - 3 - 1 中部地域タウンミーティング



日 時	平成 25 年 1 月 25 日 (金) 14 時 30 分 ~ 17 時 00 分 (開場 14 時)
場 所	沖縄市農民研修センター (住所 沖縄市登川 2380)
来 場 者	31 名
プログラム	<p>14 :00-14 :30 開場</p> <p>14 :30-14 :35 本日の趣旨説明 福井 仁史 内閣府沖縄総合事務局総務部長</p> <p>14 :35-15 :05 過年度調査の報告 小池 智歌 内閣府政策統括官 (沖縄政策担当) 付参事官 (企画担当) 付参事官補佐</p> <p>15 :05-15 :30 今回調査結果の説明 中島 禎 株式会社海邦総研経営企画部研究員</p> <p>15 :30-15 :40 休憩</p> <p>15 :40-17 :00 来場者との意見交換 (パネルディスカッション) 池田 孝之 琉球大学名誉教授 (都市計画) 親川 修 NPO 法人バリアフリーネットワーク会議代表 与那嶺哲夫 沖縄県企画部交通政策課交通企画班主幹 和久屋 聡 内閣府政策統括官 (沖縄政策担当) 付参事官 (企画担当) 付企画官</p> <p>進行 島田 尚徳 株式会社海邦総研経営企画部研究員</p>

3 - 3 - 2 北部地域タウンミーティング



日 時	平成 25 年 1 月 29 日 (火) 14 時 30 分 ~ 17 時 00 分 (開場 14 時)
場 所	名護市産業支援センター (住所 :名護市大中 1-19-24)
来 場 者	24 名
プログラム	<p>14 :00-14 :30 開場</p> <p>14 :30-14 :35 本日の趣旨説明 福井 仁史 内閣府沖縄総合事務局総務部長</p> <p>14 :35-15 :05 過年度調査の報告 小池 智歌 内閣府政策統括官 (沖縄政策担当)付参事官 (企画担当)付参事官補佐</p> <p>15 :05-15 :30 今回調査結果の説明 中島 禎 株式会社海邦総研経営企画部研究員</p> <p>15 :30-15 :40 休憩</p> <p>15 :40-17 :00 来場者との意見交換 (パネルディスカッション) 池田 孝之 琉球大学名誉教授 (都市計画) 中村 司 NPO 法人しまづくりネット 理事長 与那嶺哲夫 沖縄県企画部交通政策課交通企画班主幹 和久屋 聡 内閣府政策統括官 (沖縄政策担当)付参事官 (企画担当)付企画官</p> <p>進行 島田 尚徳 株式会社海邦総研経営企画部研究員</p>

3 - 3 - 3 南部地域タウンミーティング



日 時	平成 25 年 1 月 30 日 (水) 18 時 30 分 ~ 21 時 00 分 (開場 18 時)
場 所	与那原町社会福祉センター (住所 :与那原町字上与那原 16-2)
来 場 者	71 名
プログラム	<p>18 :00-18 :30 開場</p> <p>18 :30-18 :35 本日の趣旨説明 福井 仁史 内閣府沖縄総合事務局総務部長</p> <p>18 :35-18 :05 過年度調査の報告 小池 智歌 内閣府政策統括官 (沖縄政策担当)付参事官 (企画担当)付参事官補佐</p> <p>19 :05-19 :30 今回調査結果の説明 中島 禎 株式会社海邦総研経営企画部研究員</p> <p>19 :30-19 :40 休憩</p> <p>19 :40-21 :00 来場者との意見交換 (パネルディスカッション) 照屋 寛之 沖縄国際大学教授 (行政学 交通政策) 親川 修 NPO 法人バリアフリーネットワーク会議代表 与那嶺哲夫 沖縄県企画部交通政策課交通企画班主幹 和久屋 聡 内閣府政策統括官 (沖縄政策担当)付参事官 (企画担当)付企画官</p> <p>進行 島田 尚徳 株式会社海邦総研経営企画部研究員</p>

3 - 3 - 4 那覇地域タウンミーティング



日 時	平成 25 年 2 月 8 日 (水) 13 時 30 分 ~ 17 時 00 分 (開場 13 時)
場 所	沖縄県立博物館 美術館 講堂 (住所 :那覇市おもろまち 3-1-1)
来 場 者	105 名
プログラム	<p>13 :00-13 :30 開場</p> <p>13 :30-13 :35 本日の趣旨説明 福井 仁史 内閣府沖縄総合事務局総務部長</p> <p>13 :35-14 :30 特別講演 久野 譜也 筑波大学教授</p> <p>14 :30-14 :35 休憩</p> <p>14 :35-15 :05 過年度調査の報告 小池 智歌 内閣府政策統括官 (沖縄政策担当)付参事官 (企画担当)付参事官補佐</p> <p>15 :05-15 :25 今回調査結果の説明 中島 禎 株式会社海邦総研経営企画部研究員</p> <p>15 :30-17 :00 来場者との意見交換 (パネルディスカッション) 池田 孝之 琉球大学名誉教授 (都市計画) 照屋 寛之 沖縄国際大学教授 (行政学 交通政策) 阪井 暖子 NPO 法人地域クワイエットステイチーム代表 与那嶺 哲夫 沖縄県企画部交通政策課交通企画班主幹 和久屋 聡 内閣府政策統括官 (沖縄政策担当)付参事官 (企画担当)付企画官</p> <p>進行 島田 尚徳 株式会社海邦総研経営企画部研究員</p>

